

例のうちコロイドシンチ陽性42例(91%), 疑陽性6例(13%), ^{67}Ga シンチ陽性34例(74%), 疑陽性9例(20%), サブトラクションシンチ陽性43例(94%), 疑陽性1例(2%)であった。一方肝の限局性病変を有さない26例ではコロイドシンチ陽性5例(19%), 疑陽性9例(35%), ^{67}Ga シンチ陽性0例, 疑陽性3例(12%), サブトラクションシンチ陽性1例(4%), 疑陽性4例(15%)であった。

false positive false negative 及び accuracy はコロイドシンチではそれぞれ53%, 9%及び76%で, サブトラクションシンチでは19%, 4%及び90%であった。

原発性肝癌症例のうち肝及び ^{67}Ga シンチの両者が陰性所見を呈し, かつサブトラクションシンチで陽性像を得る事の出来た症例を2例経験している。

サブトラクションシンチグラフィーは, ^{67}Ga シンチ及び $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -コロイドシンチの両者を各々単独あるいは併用して用いる以上に原発性肝癌の診断の精度をたしかめる事が出来ると考える。

50. Ectopic Gastric Mucosa of the Esophagus の1例

大西 隆二 鍋嶋 康司 榎林 勇
西山 章次 (神大・放)
松尾 導昌 大槻 修平 (西宮・放)
吉本信次郎 (高知医大・放)

胃粘膜が, 胃以外の消化管にみられることは, 広く知られることであり, 又, 食道への異所性胃粘膜については, 本邦でも, 木暮らの報告, 等があるが, 稀である。

最近, 我々は, $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ によるシンチグラフィーにて集積像をみた, 先天性と思われる食道の異所性胃粘膜の症例を経験したので, 報告を行った。

症例は, 57歳男性で, 自覚症状はなく, 胃の集団検診にて, check され, 精査のため受診している。

胃カメラにて, 食道の異所性胃粘膜を指摘され, 門歯列より約20cmの後壁側に, 発赤を伴った病変として認められた。

病変部の生検像では, 扁平上皮下に, parietal cell 並びに, chief cell からなる胃粘膜がみられた。

$^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ によるシンチグラフィーでは, 静注60分後に最も強く, 病変部に一致して, 明瞭な hot region をみとめ, その特異性も考えると, 非常に有用であった。

先天性の食道の異所性胃粘膜は稀であるが, 比較的多

い。Barret esophagus に代表される後天性の下部食道の円柱上皮についても, $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ によるシンチグラフィーは有用であり, Meckel's diverticulum の診断のみでなく, このような症例にも, 使用されるべきと思われた。

51. 甲状腺疾患によるシンチグラムと超音波像について

関本 寔 白川 恵俊 岡橋 進
間島 行春 赤木 弘昭 (大阪医大・放)

甲状腺シンチグラフィーによる診断に, 電算機化超音波像を併用した。

電算機は EMI5005/12 型の IVC 用, Eclipse, S/200 型を利用し, 2枚のインターフェイスを介して超音波装置に接続した。

甲状腺超音波像はビニール製ウォーターバックを装備した電動メカニカルスキャンニング装置にて, 水浸法で施行した。

この方法により甲状腺像の横断断層像, 矢状断層像, 前額断層像を得た。

前額断層像ではシンチグラフィーと類似した画像として, 甲状腺の正面像が描画され, シンチグラフィーとの比較が容易であった。

〔結 語〕

1) ^{131}I によるシンチグラフィーにて甲状腺の形態が不明瞭な疾患に, 電算機化超音波像を併用すれば, 甲状腺の形態がより明瞭となった。

2) 慢性甲状腺炎ではシンチグラフィーと超音波像とも種々の形態を認めた。

3) 結節性甲状腺腫に ^{201}Tl によるシンチグラフィーと超音波像を加えることにより, 腫瘍病変の鑑別も可能となった。

52. 甲状腺腫瘍のシンチグラムと CT との比較検討

熊野 町子 石田 修 浜田 辰己
田村 健治 宇野 保 (近大・放)
梶田 明義 (成・放)

病理組織診断の確定した甲状腺腫瘍54例のシンチグラムと CT を比較し, 両検査法の有用性, 診断的特徴につき検討した。